

第3学年 *組 国語科 学習指導案			
平成 *年 *月 *日 (*) 第*校時	教室 3年*組 指導者 松本 周美		
育成する国語の能力	古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。		
単元名	物語		
単元目標	○古典に描かれた人物の性格や感情を表現に即して読み、自らの表現に改めることで、文章をさらに読み深めようとする。(関心・意欲・態度) ○古典に描かれた人物の性格や感情を表現に即して読み自らの表現に改めることで、文章をさらに読み深めることができる。(読む能力) ○語句の意味、用法などに注意しながら内容を的確にとらえることができる。(知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のアの(イ))		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	古典に描かれた人物の性格や感情を表現に即して読み、自らの表現に改めることで、文章をさらに読み深めようとしている。	古典に描かれた人物の性格や感情を表現に即して読み、自らの表現に改めることで、文章をさらに読み深めている。	語句の意味、用法などに注意しながら内容を的確にとらえている。
取り上げる言語活動	古典を脚本にし、演じること。		
題材(教材)	『大鏡』 「弓争い」		
単元(教材)について	(1)生徒観：一問一答式の「正解」がはっきりしている発問に対しては積極的であるが、文章に即して心情を考察したり、描かれた人々の生き方について考えを深めたりするような発展的な内容に関しては、受け身な姿勢が多く見られる。 (2)教材観：戯曲的対話形式を用いた構想で、多角的な視点から道長やその周辺の人物像を生き生きと描く。「弓争い」は、若き日の道長の気丈さを伊周との対比により印象的に描いた挿話で、地の文・会話文に臨場感があり、人物像を読み取るのに適している。 (3)指導観：古典に描かれた人物像に深く迫るために、脚本化及び実演という言語活動を取り入れる。会話や動きをどのように表現するかを話し合ったり練習したりする中で、人物の性格や感情への理解が深まると考える。		
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価
	1	本文を通読し、『大鏡』の文学的価値について知る。	・歴史物語について整理し、『大鏡』の価値について理解している。(知識・理解)
	2	古文の敬語について学ぶ。	・敬語の種類や敬意の方向を理解している。(知識・理解)
	3	主語や展開に注意しながら全体を口語訳する。	・主語、敬語などを確認し、正確に内容を読み取る。(知識・理解)
	4	人物像について、本文を根拠に読み取り、班別に話し合い、発表する。	・本文を根拠に自分の考えを整理し、相手の考えを聞き、さらに自分の考えを深めることができる。(読む能力)
	5	話し合った人物像を表現できるような脚本を作成する。	・本文を根拠に人物の状況や心情を捉え、台詞、動き、演出等を自らの表現で書き表している。(読む能力)
	6	演劇の練習及び必要な小道具類を作成する。	・性格や場面がよく伝わるように台詞や動きや演出を工夫して練習している。(関心・意欲・態度)

	7 劇の発表及び評価を行う。	・性格や場面がよく伝わるように台詞や動きや演出を工夫して発表している。 (関心・意欲・態度)
--	----------------	---

本 時 案 (第5時)

本時の目標	古典に描かれた人物の性格や感情を表現に即して読み、脚本に改めることで、人物像に深く迫る。(読む能力)
-------	--

準備	前時のワークシート, 脚本の例, 脚本ワークシートA・B (2種類)
----	------------------------------------

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時の学習内容を確認し、本時の内容を理解する。	○前時に話し合い、読み取った人物像について確認を促す。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 人物の性格や感情が伝わるような脚本を作成しよう。 </div>		
2 脚本例と解説を読み、脚本について理解する。	○文学作品を脚本化した例を示し、脚本について基本的な説明(台詞とト書き部分で構成されること)を行う。	
3 本時で扱う脚本ワークシートについて理解する。	○脚本ワークシートでは主に台詞と、既に記入されているト書きに合った動きや演習を記入することを伝える。 ○脚本ワークシートはA・Bの二種類あり、グループによって自由に選択できることを伝える。 A…語り手を設定し、劇を進行する。 B…語り手は設定せず、役者の演技のみで劇を進行する。	
4 5人グループになり、A Bいずれかの脚本ワークシートを選択し、台詞と動き、演出を話し合っ て記入する。同時に配役も話し合っ て決定する。	○前時に話し合った人物像を伝わるように表現することを目的に、台詞や動きを考えることを指示する。 ○本文から大きく逸脱しないよう注意し、台詞は現代語でよいこと、表現は各グループで判断することを伝える。 ○必要な小道具類に関しては、ワークシートに記入しておき、練習時間の中で作成することを伝える。	
5 作成した脚本で読み合わせ等を行う。	○グループの進行状況に応じて、読み合わせたり、実際に動きを付けながら演技をしたりするように指示する。	○本文を根拠に人物の状況や心情を捉え、台詞、動き、演出等を自らの表現で書き表している。 (読む能力)
6 発表に向け、脚本の改善を図る。	○読み合わせまたは動きを付けた演技をした結果、不十分と思われる箇所を加筆訂正するように指示する。	〈記述の点検〉 ・迷った際は、本文の表現に立ち返り、前時のワークシートで改めて人物像を確認させる。